

教育課程 および 履修について

I. 教育課程および単位制度	3
II. 教養系科目	4
III. 専門教育科目	9
IV. 自由選択科目	10
■各科目の卒業所要単位・GPA・CAP への適用一覧表	12
■英語科目のプログラム	13
■選択外国語（英語以外の外国語）のプログラム	17

I. 教育課程および単位制度

1. 教育課程

生命科学部の授業科目は、**教養系科目**と、**専門教育科目**からなり、これらの科目を4年に配当して授業を実施しています。卒業して学士の学位を得るためには所定の授業科目の単位を修得しなければなりません。卒業するために必要な単位数およびこの内容に関する規定は極めて厳格なものであり、この「履修の手引き」を熟読し、誤りのないよう十分に注意してください。

また、教育職員・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員等の資格取得志望者のために、教職・資格に関する科目が設置されています。

2. 単位制度

本学における教育課程は、すべてに単位制度が採用されています。単位制度とは、所定の授業科目の履修を終了し（所定の期間を受け終わること）、平素の学習・出席状況および試験・レポート等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度です。また、特定条件を満たすことにより単位が認定される科目もあります。

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、大学設置基準第二十一条に則り計算するものとします。

(1) 毎週1回14週の授業で1単位の場合は1時間の授業時間外学習を必要とする。

(2) 毎週1回14週の授業で2単位の場合は4時間の授業時間外学習を必要とする。

3. 卒業所要単位および修業・在学年限

本学部を卒業し学士（生命機能学科：生命科学、環境応用化学科：理学、応用植物科学科：生命科学）の学位を得るためには、4年以上（最高8年）在学し、各学科の定める単位数を修得しなければなりません。各学科の定める要件については、本書の各学科の案内を確認してください。

卒業所要単位 ※詳細は必ず各学科のページで確認してください。

科目系列		必要単位数	
教養系科目	英語科目	8単位	計32単位以上 (内訳は学科、入学年度により異なる)
	教養科目	24単位以上 (内訳は学科、入学年度により異なる)	
	理系教養科目		
専門教育科目	学部共通科目	80単位以上 (内訳は学科、入学年度により異なる)	計124単位以上
	学科共通科目		
	学科専門科目		
	専修専門科目		
自由選択科目		12単位以下	

Ⅱ. 教養系科目

1. 生命科学部の教養系科目

今日の飛躍的な科学技術の発展に対応し、専門領域の知識や研究をよく理解するためには、自然科学の基礎的な方法を理解し、人類が直面している諸問題を広い視野に立って明らかにするとともに理論的な思考能力、分析能力を高め、総合的な判断能力を養うことが必要です。

また、21世紀の科学技術に携わる者は、科学技術に対する倫理観、人間と科学技術の関係について考えることも必要とされます。

さらに、国際化社会への対応として、コミュニケーション手段としての外国語のみならず、外国語を文化とともに学ぶことが必要とされています。これらの需要に応えるために、生命科学部では、カリキュラムにおいてさまざまな工夫がなされていますが、その一つが教養系科目です。

教養系科目は、人として豊かな人生を送るために必要な幅広い教養と国際性を身につけるとともに、各専門分野に先立つ基礎学問の習得を目的とし、学生諸君が興味をもって主体的に学べるように、さまざまな科目を用意しています。生命科学部の教養系科目は3つの科目群から構成されています。

(1) 英語科目（必修科目 8単位）

(2) 教養科目

- a. 人文・社会・自然科学系
- b. スポーツ健康科学系（2018年度以前入学者は保健体育系）
- c. 選択語学系（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語）
- d. リテラシー系

(3) 理系教養科目

- a. 数学系
- b. 理科系

教養科目と理系教養科目は、両系列を合わせて24単位以上の修得が、卒業に必要な最低条件です。なお、生命機能学科生は、「生命機能学基礎英語Ⅰ・Ⅱ」「生命機能学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と「生命機能学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」を、その中に含む必要があります。詳細は各学科の案内を参照してください。

2. 英語科目

グローバル化が進む21世紀社会においては、語学、特に英語の能力は技術者・研究者にとって必要不可欠となっています。本学部ではこの点を考慮し、**1年次に「コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ」「コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ」「コミュニケーション・ストラテジー」の3科目、2年次に「アカデミック・ライティング」「アカデミック・リーディングⅠ」「アカデミック・リーディングⅡ」の3科目を必修として設定しています。**授業開始前に受講クラスの発表がありますので、曜日・時限・科目名だけでなく、**必ず担当教員名を確認して、各配当学年で確実に履修してください。**

なお、学習方法の詳細等については、後に別記されている「英語科目のプログラム」と「選択外国語（英語以外の外国語）のプログラム」の単元を参照してください。

3. 教養科目

(1) 人文・社会・自然科学系

幅広い知識への興味とそれを理解しようとする意欲は、人間形成を考える上で非常に重要な要素です。生命科学部では学生諸君の知的好奇心に応えられるよう、人文系、社会系、自然科学系においても、多様な科目を用意しています。色々な分野に目を向け、積極的に履修することを期待します。なお、受講希望者が多い科目は抽選になる可能性がありますので、掲示を確認して下さい。

(2) スポーツ健康科学系（2019年度以降入学者）

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実習と講義の両面から学びます。

スポーツ健康科学実習はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの4科目があります。主にボールゲームを通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性などを学ぶことで、基礎的かつ総合的なこころとからだの健康づくりの方法を習得します。全てのスポーツ健康科学実習において実施する体力測定は、自分自身を知り、運動・生活習慣を見直すことを目的としています。スポーツ健康科学実習は、初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は抽選を行います。受講希望者は集合場所を東館2階にある体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

スポーツ健康科学講義はⅠ・Ⅱの2科目があります。スポーツ健康科学講義Ⅰ（健康）では、様々な健康被害を広く学び、かつそれらと我々の身近な環境との関連を知ることで大学卒業後のライフスタイルをどのように構築していくかを考えます。スポーツ健康科学講義Ⅱ（スポーツ）では、スポーツをする、みる、ささえる、の視点から広く学び、かつ運動との関わりについて考えます。具体的には、効果的なトレーニング法、適切な応急処置、望ましい栄養摂取などについて紹介します。スポーツ健康科学講義Ⅰ・Ⅱは、Webでの履修登録抽選を行います。詳細は、小金井事務部学務課にあるWeb履修登録の手引きを確認してください。

(3) 保健体育系（2018年度以前入学者）

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

体育実技はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの4科目があります。主にボールゲームを通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要などを学ぶことで、基礎的かつ総合的なこころとからだの健康づくりの方法を習得します。全ての体育実技において実施する体力測定は、自分自身を知り、運動・生活習慣を見直すことを目的としています。体育実技は、初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

健康の科学では、様々な健康被害を広く学び、かつそれらと我々の身近な環境との関連を知ることで大学卒業後のライフスタイルをどのように構築していくかを考えます。健康の科学は、Webでの履修登録抽選を行います。詳細は、小金井事務部学務課にあるWeb履修登録の手引きを確認してください。

(4) 選択語学系

選択科目の英語と、英語以外の外国語を学習します。

選択語学群の英語科目の目的は、ESP (English for Specific Purposes : 特定目的のための英語) であり、より入門レベルの内容から、よりハイレベルの内容までの科目を設定しています。本書の「英語科目と選択外国語 (英語) のプログラム」の単元を併せて参照してください。

英語以外の外国語としては、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語を学ぶことができます。複数の種類の語学を学習することも可能ですので、本書の「選択外国語プログラム (英語以外の外国語) 」の単元を参考にしてください。

なお、「生命機能学基礎英語Ⅰ・Ⅱ」「生命機能学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は生命機能学科生のみが受講対象の必修科目です。

(5) リテラシー系

リテラシー系の情報系 2 科目は、プレゼンテーション資料の作成法からプレゼンテーションの仕方、あるいは表計算ソフトや数式処理ソフトを利用したデータ処理法の基礎を学ぶもので、簡単なプログラミング手法についても学習します。また、研究者・技術者は、日々の研究開発等によって得た様々な情報を、正しく人に伝え、共有するためのコミュニケーション能力が必要とされます。そのような能力を養成するために、「文章作法」では実践的な論理的文章の作成方法について学習します。

4. 理系教養科目

理系教養科目は、自然科学に関わる一般的な教養を高めるとともに、各学科専門科目の基礎となる重要な理数系の基礎科目群であり、数学系と物理学・化学・生物学の理科系の科目が配置されています。

自然科学の研究は、自然現象を観察して仮説を立て、これを実験によって検証していくという作業の繰り返しになります。「科学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、学生諸君が自然科学に対する興味を培い、座学ではなく自然科学に直接触れ、幅広い関心を育むとともに、**専門科目の実験の導入的な位置付けとなる重要な科目群**です。主に「Ⅰ」は物理学分野、「Ⅱ」は化学分野、「Ⅲ」は生物学分野に関連した実験を行います。各科目はそれぞれ 3 時限連続で実施され、生命科学部では、自然科学に関する**バランスのとれた基礎学力を養成するため、3 科目を同時に履修**することを修得の条件としており、4 週で一つの分野を修める構成になっています。

なお、「生命機能学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」(必修科目)、「フロンティアバイオサイエンス入門」(選択科目)は、生命機能学科生のみが受講対象の科目です。

教養系科目一覧【2019年度以降入学者用】

	科目名	配当 年次	単位数			科目名	配当 年次	単位数		
			必修	選択				必修	選択	
英語科目	コミュニケーション・ストラテジー	1	2			基礎ドイツ語 I	1		1	
	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	1	1			基礎ドイツ語 II	1		1	
	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ II	1	1			ドイツ語表現	1		1	
	アカデミック・ライティング	2	2			ドイツ語中級	1		1	
	アカデミック・リーディング I	2	1			上級ドイツ語	1		1	
	アカデミック・リーディング II	2	1			基礎フランス語 I	1		1	
人文・社会・自然科学系	哲学入門	1		2	選択語学系	基礎フランス語 II	1		1	
	言語学概論	1		2		フランス語表現	1		1	
	日本文化論	1		2		フランス語中級	1		1	
	アジア文化論	1		2		上級フランス語	1		1	
	ヨーロッパ・アメリカ文化論	1		2		基礎スペイン語 I	1		1	
	アフリカ文化論	1		2		基礎スペイン語 II	1		1	
	比較文化論	1		2		スペイン語表現	1		1	
	映像芸術	1		2		スペイン語中級	1		1	
	音楽芸術	1		2		上級スペイン語	1		1	
	こころの働き	1		2		基礎中国語 I	1		1	
	パーソナリティ	1		2		基礎中国語 II	1		1	
	知的所有権	1		2		中国語表現	1		1	
	社会科学の方法論	1		2		中国語中級	1		1	
	国際関係論	1		2		上級中国語	1		1	
	基礎経済学	1		2		基礎朝鮮語 I	1		1	
	応用経済学	1		2		基礎朝鮮語 II	1		1	
	企業マネジメント	1		2		朝鮮語表現	1		1	
	現代政治学	1		2		朝鮮語中級	1		1	
	キャリアデザイン	1		2		上級朝鮮語	1		1	
	法学(日本国憲法)	1		2		リテラシー系	文章作法	1		2
	法と社会	1		2	情報リテラシーと表現技術		1		2	
	科学技術史	1		2	情報処理技法		1		2	
	先端技術・社会論	1		2	科学技術コミュニケーション演習 ※1		1		2	
	技術者倫理	1		2	数学系		線形代数学及び演習 I	1		2
	情報倫理	1		2		線形代数学及び演習 II	1		2	
	環境と資源	1		2		微分積分学及び演習 I	1		2	
	宇宙と地球	1		2		微分積分学及び演習 II	1		2	
	生命の起源と進化	1		2		理系教養科目 理科系	物理学基礎 I	1		2
	生物の多様性	1		2	物理学基礎 II		1		2	
	物質科学と先端技術	1		2	化学基礎 I		1		2	
	保健体育系	スポーツ健康科学実習 I	1		1		化学基礎 II	1		2
		スポーツ健康科学実習 II	1		1		生物学基礎 I	1		2
		スポーツ健康科学実習 III	1		1		生物学基礎 II	1		2
スポーツ健康科学実習 IV		1		1	科学実験 I ※2		1		1	
スポーツ健康科学講義 I		1		2	科学実験 II ※2		1		1	
スポーツ健康科学講義 II		1		2	科学実験 III ※2		1		1	
選択語学系	英語中級コミュニケーション	1		1	生物機能学基礎実験 I ※3		1		2	
	英語中級リーディング	1		1	生物機能学基礎実験 II ※3	2		2		
	英語中級ライティング	1		1	フロンティアバイオサイエンス入門	1		2		
	ビジネス英語	1		1						
	基礎英語	1		1						
	英語資格試験準備講座	1		1						
	上級英語	1		1						
	生命機能学基礎英語 I ※3	1		1						
	生命機能学基礎英語 II ※3	2		1						
	生命機能学英語 I ※3	3		1						
	生命機能学英語 II ※3	4		1						
生命機能学英語 III ※3	4		1							

※1 科学技術コミュニケーションはSAプログラムのための認定科目

※2 3科目を同時に履修

※3 生命機能学学科のみ受講可

教養系科目一覧【2018年度以前入学者用】

	科目名	配当年次	単位数		備考	
			必修	選択		
英語科目	コミュニケーション・ストラテジー	1	2			
	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ	1	1			
	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ	1	1			
	アカデミック・ライティング	2	2			
	アカデミック・リーディングⅠ	2	1			
	アカデミック・リーディングⅡ	2	1			
人文・社会・自然科学系	哲学入門	1	2			
	言語学概論	1	2			
	日本文化論	1	2			
	アジア文化論	1	2			
	ヨーロッパ・アメリカ文化論	1	2			
	アフリカ文化論	1	2			
	比較文化論	1	2			
	映像芸術	1	2			
	音楽芸術	1	2			
	こころの働き	1	2			
	パーソナリティ	1	2			
	知的所有権	1	2			
	社会科学の方法論	1	2			
	国際関係論	1	2			
	基礎経済学	1	2			
	応用経済学	1	2			
	企業マネジメント	1	2			
	現代政治学	1	2			
	キャリアデザイン	1	2			
	法学(日本国憲法)	1	2			
	法と社会	1	2			
	科学技術史	1	2			
	先端技術・社会論	1	2			
	技術者倫理	1	2			
	情報倫理	1	2			
	環境と資源	1	2			
	宇宙と地球	1	2			
	生命の起源と進化	1	2			
	生物の多様性	1	2			
	物質科学と先端技術	1	2			
	保健体育系	体育実技Ⅰ	1	1		
		体育実技Ⅱ	1	1		
		体育実技Ⅲ	1	1		
体育実技Ⅳ		1	1			
健康の科学		1	2			
理系教養科目	選択語学系	英語中級コミュニケーション	1	1		
		英語中級リーディング	1	1		
		英語中級ライティング	1	1		
		ビジネス英語	1	1		
		基礎英語	1	1		
		英語資格試験準備講座	1	1		
		生命機能学基礎英語Ⅰ	1	1	2014年度以降入学の生命機能学科のみ受講可	
		生命機能学基礎英語Ⅱ	2	1		
		生命機能学英語Ⅰ	3	1		
		生命機能学英語Ⅱ	4	1		
		生命機能学英語Ⅲ	4	1		
		基礎ドイツ語Ⅰ	1	1		
		基礎ドイツ語Ⅱ	1	1		
		ドイツ語表現	1	1		
		ドイツ語中級	1	1		
	基礎フランス語Ⅰ	1	1			
	基礎フランス語Ⅱ	1	1			
	フランス語表現	1	1			
	フランス語中級	1	1			
	基礎スペイン語Ⅰ	1	1			
	基礎スペイン語Ⅱ	1	1			
	スペイン語表現	1	1			
	スペイン語中級	1	1			
	基礎中国語Ⅰ	1	1			
	基礎中国語Ⅱ	1	1			
	中国語表現	1	1			
	中国語中級	1	1			
	基礎朝鮮語Ⅰ	1	1			
	基礎朝鮮語Ⅱ	1	1			
	朝鮮語表現	1	1			
朝鮮語中級	1	1				
リテラシー系	文章作法	1	2			
	情報リテラシーと表現技術	1	2			
	情報処理技法	1	2			
	科学技術コミュニケーション演習 ※	1	2	SAプログラムのための認定科目		
数学系	線形代数学及び演習Ⅰ	1	2			
	線形代数学及び演習Ⅱ	1	2			
	微分積分学及び演習Ⅰ	1	2			
	微分積分学及び演習Ⅱ	1	2			
	理科系	物理学基礎Ⅰ	1	2		
		物理学基礎Ⅱ	1	2		
		化学基礎Ⅰ	1	2		
		化学基礎Ⅱ	1	2		
		生物学基礎Ⅰ	1	2		
		生物学基礎Ⅱ	1	2		
		科学実験Ⅰ	1	1	3科目を同時に履修	
		科学実験Ⅱ	1	1		
		科学実験Ⅲ	1	1		
		生物機能学基礎実験Ⅰ	1	2	2014年度以降入学の生命機能学科のみ受講可	
	生物機能学基礎実験Ⅱ	2	2			
フロンティアバイオサイエンス入門	1	2				

Ⅲ. 専門教育科目

1. 学部共通科目

生命科学部のカリキュラムの特徴のひとつとして、各学科のカリキュラムの中に学部内に共通した基礎専門科目を挙げることができます。これらの科目を習得することにより生命科学および現代化学の基礎から応用に至る横断的・学際的な知識を身につけることができます。学科によって必修，選択の違いはありますが，積極的に履修することをお勧めします。

2. 専門科目

すべての科目は、学科のカリキュラムにおいて、より効果的であると思われる学年で学べるように配置しています。とりわけ必修科目の内容を理解することは、上位学年の担当専門科目の内容を理解するうえで必要不可欠なものとなっていますので、必修科目は必ず配当年次で履修してください。

なお、詳細については、本書の各学科の案内を参照してください。

IV. 自由選択科目

1. グローバル教育センター設置科目

(1) ERP (English Reinforcement Program/英語強化プログラム)

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業の一環として、TOEFL iBT® 80点以上取得を目標とした英語強化プログラム (English Reinforcement Program: 以下「ERP」) が開講されています。授業はすべて英語イマージョン環境による少人数クラスで行われ、英語力を高めたいと考えている学生、海外留学や国際機関・国際企業への就職を考えている学生に受講を勧めます。

生命科学部では、合計 12 単位まで履修できます。

詳細は各キャンパスGラウンジまたはグローバル教育センターのウェブサイト

(<http://www.global.hosei.ac.jp>) にて確認してください。

(2) 交換留学生受入れプログラム (ESOP)

本学の国際化の発展に向けて、これまでに交流を深めてきた海外の協定大学から広く交換留学生を受け入れるために開設されたプログラムで、日本の社会・経済・文化などについて全て英語によるゼミ形式で学びます。交換留学生とともに本学の学生も受講でき、多くの学部で単位認定もされます。語学能力を向上させ、国際的センスを磨くためにも有意義で、将来海外留学や海外勤務など国際化社会にはばたくことに役立つでしょう。交換留学生と切磋琢磨し、国際交流の輪を広げることを目的とする学生の積極的な参加を期待しています。単位認定を希望する方は、グローバル教育センターウェブサイトより申し込みが必要です。必ず確認してください。

申込方法など詳細はグローバル教育ウェブサイトにて確認してください。

(3) 日本語教育プログラム

2020 年度より小金井キャンパスで新しい日本語教育プログラムが始まります。詳細は、グローバル教育センターが案内する別紙で確認してください。

(4) 短期語学研修

グローバル教育センターが主催している集中語学研修です。夏季休暇中と春季休暇中に、英語をはじめとした外国語の語学力の強化のため、2 週間から 4 週間程度の短期語学研修を実施しています。研修先は本学の海外協定校に付置された語学研修施設で、習熟度別にクラス編成がされるなど、初めて海外に行く方にもお勧めの研修制度です。

いずれの施設でも集中講座として厳格に出席管理がなされ、プログラム修了時には「修了証」が発行されます。実用的な語学力を身につけるためには有意義な研修内容となっています。

生命科学部では、1 科目 (2 単位) のみ履修できます。

詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(5) 国際ボランティア

グローバル教育センターが主催している「国際ボランティア」プログラムです。夏季休暇中と春季休暇中の 3 週間程度、派遣先で必要としている活動に他国の留学生とともに参加し、直接交流することで、文化や言葉の壁を越えて相互に理解を深めながらコミュニケーション能力を養います。詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。生命科学部では、1

科目（1単位）のみ履修できます。

詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(6) 国際インターンシップ

グローバル教育センターが主催している「国際インターンシップ」プログラムです。夏季休暇中と春季休暇中に、現場に身を置き国際協力や国際的なビジネスに対する理解を深めるため、1週間から4週間程度の「国際インターンシップ」プログラムを実施しています。

海外の企業や NGO 団体でのインターンシップを通じて、グローバル環境での働き方や企業文化の違いを学びます。将来的にはグローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげていくものです。プログラムにより派遣地域、派遣期間が異なります。

生命科学部では、1科目（1単位）のみ履修できます。

詳細はグローバル教育センターのウェブサイトにて確認してください。

2. グローバル・オープン科目

法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために全学で開講されている学部横断型の科目群です。

本プログラムは、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業の一環であり、その事業の教育目的である「持続可能な地球社会の構築に貢献できるグローバル人材を育成する」を具現化する教育プログラムの一つです。このプログラムでは、すべての教授言語を英語としています。各学部で定められた科目履修要領に基づき、このグローバル・オープン科目を履修することにより、学部の専門性を超えたグローバルな視点での課題解決能力を修得することを目指します。

各科目はレベル分けがなされており、各自の習熟度によって履修することができます。また、多くの科目が少人数で開講されるのが特長です。

「ビジネス&マネジメント」「ビジネス&エコノミクス」「国際関係」「社会と文化」「科学・技術」の5領域に加え、教授言語である英語運用能力を高める「実践英語」領域が用意されています。各領域を体系立てて学ぶことにより所属学部の科目で修得した専門性を活かしながら、学問分野を超えた高度な知識とグローバルな視野から幅広い知識を身につけることが可能となります。

また、各領域の中で12単位以上修了した方には、所定の申請により「領域別プログラム修了証」が発行されます。

その他詳細は、掲示板、ウェブサイト等で確認してください。

生命科学部では、合計4単位まで履修できます。

※ERP、短期語学研修、国際ボランティア、国際インターンシップ、グローバル・オープン科目は、合計12単位まで自由選択科目（卒業所要単位）として履修・修得できます。

※短期語学研修、国際ボランティア、国際インターンシップは GPA 制度対象外。

生命科学部

■各科目の卒業所要単位・GPA・CAPへの適用一覧表

開講されている科目のほとんどは、以下のいずれの制度にも適用されます。しかし、一部の科目において例外もしくは分かりにくい点がありますので以下の表に示します。

対象科目の履修を検討している場合は必ず確認してください。

科目（制度）名		卒業 所要 単位	GPA 制度	履修 単位 制限 (CAP) 制度 注1	備考
教養系科目	英語資格試験準備講座 (単位認定制度による「RR」評価の場合)	対象	対象外	対象	対象者には個別に連絡します。 単位認定制度については「2020年度生命科学部生のための履修の手引き」(以下「履修の手引き」) P15を参照してください。
	科学技術コミュニケーション演習 (SAプログラム用認定科目)	対象	対象外	対象外	「履修の手引き」P89も参照してください。
自由 選択 科目	ERP科目	対象	対象	対象	履修できるのは12単位までですが 各科目・分野ごとに科目数、単位数の 制限があります。こちらも「履修の手 引き」P10～P11で確認してください。
	短期語学研修・国際ボランティア・国際インターンシップ・	対象	対象外	対象外	
	グローバル・オープン科目	対象	対象	対象	
日本語教育プログラム (JLP)		対象外	対象外	対象	詳細は、グローバル教育センターが別途案内する別紙で確認してください。
成績優秀者 他学部科目履修制度		対象外	対象外	対象外	対象者には個別に連絡します。年間8 単位までです。履修については諸注意 があります。「履修の手引き」P88で確 認してください。
交換留学生受入れプログラム (ESOP)		対象外	対象外	対象外	履修登録期間に登録します。
大学院先取り科目		対象外	対象外	対象	大学院進学後、修了所要単位・累積GPA に算入されます。
教職・資格科目		対象外	対象外	対象外	詳細は「教職課程履修の手引き」で確 認してください。

注1: 履修単位制限(CAP)制度では、春学期秋学期各々について30単位、年間の合計が49単位を超えて履修登録することはできないと定められていますが、2年次以上の学生で前年度までの累積GPAが3.5以上の場合は年間60単位まで履修できます。(20200210)

■ 英語科目のプログラム

1. 理念と目的

大学での英語教育の目的は、学術研究に資する英語の習得であることは論を待ちませんが、同時に TOEIC®などの英語資格試験に代表される一般的コミュニケーション英語に対する学生の要望、社会の要求に応えていかなければなりません。この考え方に基づいて、二つの目的の英語「学術目的の英語」(EAP: English for Academic Purposes)と「一般教養目的の英語」(EGP: English for General Purposes)を区別し、両者を有機的に関連づけることによって学問の場にいる者にふさわしい教養の涵養を目指します。

2. 英語カリキュラムの構成と科目

英語必修科目は8単位とし、1年次で総合基礎英語をEGPプログラムで固め、2年次で大学で研究するに足る最低限の英語の習得をEAPプログラムで目指します。1年次のEGPプログラムでは、豊かな語彙力・正確な文法力に支えられた4技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)の向上を目指します。2年次のEAPプログラムでは、文章の論理構造を分析し、効果的な読解方法によるパラグラフ・リーディング、そして論理的な文章を書くパラグラフ・ライティングからプレゼンテーションを目指します。クラスサイズは、EGPプログラムのコミュニケーション・ストラテジー、EAPプログラムのアカデミック・ライティングの二つにおいて、学生数を最大20人以下の少人数制とします。入学時のプレースメントテスト(TOEIC®-IP)と1年次終りのTOEIC®-IPテストによって、2年間を通じて習熟度別クラス編成を行います。習熟度別クラスは英語学習効率を高めるのが目的です。上位クラスでの不公平感を解消するために上位クラスに行けば行くほど成績が優遇されます。

英語の選択科目としては、「特定目的の英語」(ESP: English for Specific Purposes)の科目、例えば、基礎英語、英語中級コミュニケーション、英語中級リーディング、英語中級ライティング、英語資格試験準備講座(TOEIC®準備講座)などの科目を置いています。

(1) 英語プログラムの科目

① 英語必修科目 (EGP・EAPプログラム) 8単位

a. EGPプログラム 1年次配当

単位

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ(Comprehensive English) I (春学期)・II (秋学期)	半期1単位で計2単位
コミュニケーション・ストラテジー(Communication Strategy)	半期で2単位

b. EAPプログラム 2年次配当

単位

アカデミック・リーディング(Academic Reading) I (春学期)・II (秋学期)	半期1単位で計2単位
アカデミック・ライティング(Academic Writing)	半期で2単位

② 英語選択（ESP）科目 （各科目とも半期1単位）

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎英語（Basic English） ・英語中級コミュニケーション（Intermediate Oral Communication） ・英語中級リーディング（Intermediate Reading） 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語中級ライティング（Intermediate Writing） ・英語資格試験準備講座（TOEIC®準備講座） ・その他、ビジネス英語などのESP科目
--	---

(2) 英語学習スケジュール

		春学期 4月－7月	秋学期 9月－1月	12月第1日曜日
1年	共通テスト	TOEIC® Test (1回目)		TOEIC® Test (2回目)
	必修科目	Communication Strategy*	Communication Strategy*	
		Comprehensive English I	Comprehensive English II	
	選択科目	基礎英語など	英語資格試験準備講座**等	
2年		春学期 4月－7月	秋学期 9月－1月	12月第1日曜日
	共通テスト			TOEIC® Test (3回目)
	必修科目	Academic Writing*	Academic Writing*	
		Academic Reading I	Academic Reading II	
選択科目	中級リーディングなど	英語資格試験準備講座**等		

* Communication StrategyとAcademic Writingは、少人数制で、指定された春学期か秋学期のどちらかを受講します。空いている方の半期には、英語選択科目を受講することを強く勧めます。

** 「英語資格試験準備講座」は、現在、TOEIC®準備のための講座だけ開設しています。目標レベルはおおよそ500点から700点で、どの講座クラスも共通となります。

3. 共通TOEIC®テストとクラス編成について

1年生と2年生は、TOEIC®テストの結果でクラス編成を行います。1年生クラスは入学時のTOEIC®-IPテスト、2年生クラスは1年次の12月に実施される2回目のTOEIC®-IPテストの結果によってレベル別のクラスに分けられます。このようにすることで学生は最適な学習環境で英語の授業を受けることができます。なお、成績評価は公平を期するためにクラスのレベルが考慮され、上位クラスに行けば行くほど成績が有利に評価されます。しかしながら、それは下位クラスではA+やS評価がとれないということではありません。どれだけ努力したかもむろん評価されます。

また、TOEIC®テスト結果によって、成績優秀者は以下に述べるボーナス制度の対象となり、授業科目の成績が優遇されます。TOEIC®テストは、必ず受験してください。受験を怠るとTOEIC®テストによるボーナス制度を受けられないだけでなく、その結果によって編成する2年次のクラスが決まらず、履修登録ができない事態が起こります。万一やむを得ず受験できないものは直ちに所属学部の窓口へ申し出て指示を受けてください。

(1) TOEIC®テストによるボーナス制度

- ① 1年秋学期Comprehensive English IIの成績の優遇（基本的には1段階上げること）が担当の先生に推奨されます。

条件：TOEIC®テスト（1回目入学時）の結果と12月のTOEIC®テスト（2回目）の結果を比べ、著しい成績上昇がある場合。ただし、基になる入学時のTOEIC®テストの成績が極端に低い場合、この制度の対象とはなりません。また、このボーナスは自動的に付与されるものではありません。該当科目の先生の判断で決まります。授業の成績が非常に低く努力が認められない場合などは、優遇が受けられません。

- ② 2年秋学期Academic Reading IIの成績の優遇（基本的には1段階上げること）が担当の先生に推奨されます。

条件：1年次終了12月のTOEIC®テスト（2回目）と2年次終わりのTOEIC®テスト（3回目）の結果を比べ、著しい成績上昇がある場合。ただし、基になる1年次12月のTOEIC®テストの成績が極端に低い場合、この制度の対象とはなりません。また、このボーナスは自動的に付与されるものではありません。該当科目の先生の判断で決まります。授業の成績が非常に低く努力が認められない場合などは、優遇が受けられません。

③ 単位認定制度

- a. TOEIC®テスト（2回目または3回目）において、540点以上の得点で、「英語資格試験準備講座」をRR評価で単位認定します。RRとは授業に拠らないで単位認定されたという意味です。

なお、このスコアは学内のTOEIC®テストを受験した場合のみ有効で、外部試験を受験した場合は適用されません。この制度の該当者には個別に連絡します。また単位認定された科目は履修単位制限制度には含まれますが、GPAの算出対象外となります。

- b. 「英語資格試験準備講座」を秋学期に履修中の場合、540点以上はA評価、625点以上はS評価が推奨されます。ただし、この優遇評価は自動的に与えられるものではありません。講座担当の先生の判断で決まります。欠席や遅刻が多い、授業態度および授業内評価が悪いなど、努力が認められない場合は、この推奨の対象とはなりません。

(2) TOEIC®テストによるペナルティー制度

- ① TOEIC®テスト（2回目）を正当な理由なく欠席した場合、有料のTOEIC®公開テストを受けて結果を3月末日までに提出しなければなりません。これも怠った場合、2年次の習熟度別クラスが決まらないので英語必修科目の履修登録ができません。万一やむを得ない理由で公開テストも受験できなかった人は、直ちに所属学部の窓口に申し出て指示を受けてください。

- ② TOEIC®テスト（3回目）を理由なく欠席した場合、3年次に英語選択科目の履修登録はできません。

4. TOEIC®受験について

TOEIC®とは、自分の英語力を客観的に測るための物差しです。英語力を伸ばすためには、地

道な自習を行うと同時に、自分の英語の実力をテスト結果に反映させるため、TOEIC®のテスト形式に慣れる必要があります。そのため、英語担当の先生方によっては、授業の中でTOEIC®準備の指導をする場合があります。また、選択科目のTOEIC®準備講座を利用することもできます。

しかし、本学部の英語教育の目的は、英語コミュニケーション能力を養成することを基本に、研究生活に役立つ英語を身につけることであり、単にTOEIC®の点数を上げることではありません。大学は受験対策予備校ではないことを忘れないでください。

(1) TOEIC®受験準備参考書

TOEIC®受験準備参考書は、どこの本屋にも専門のコーナーがあり、何百冊も山積みになっています。どれを選んだらいいのか迷ってしまいます。まずは、『TOEIC®公式問題集』を手に入れて実力を試してみてください。英語の授業でTOEIC®の指導がされる場合は、その先生方の指示に従ってください。自分でもっと勉強したいという人は、別途配付する『英語上達への道』を参考にしてください。

(2) 英語学習の時間数と TOEIC®の関係

TOEIC®の英語資格試験で 100 点成績を上昇させるためには、大雑把に言って約 200-300 時間の英語学習が必要といわれています。1 科目あたりの英語学習時間は、週 1 回 100 分授業に対し、少なくとも 2~3 時間の自宅学習（予習・復習）が必要です。すると、1 科目あたりの総英語学習時間は、次表のように半期で約 51~65 時間となります。

これを上記の英語プログラムに当てはめれば、1 年生の終わりに必修 2 科目（半期×3）と選択 1 科目で約 204~260 時間になりますから、まじめに英語に取り組めば、TOEIC®テストにおいて 1 年間で 100 点の成績上昇も難しいことはありません。2 年次には、さらに必修 2 科目と選択 1 科目で 200 時間以上積み重ねることができますから、2 年間で TOEIC® 500 点以上の達成も十分可能です。これを実現するために、試験前に一夜漬けで勉強することなく、くれぐれも普段からの積み重ねで英語の実力をつけてください。

<英語 1 科目当たりの半期授業時間と学習時間>

授業回数	授業時間	自習時間	半期総学習時間
14 週 (半期 14 回)	23 時間 (100 分×14 回)	28-42 時間 (週 2-3 時間×14 回)	約 51-65 時間

5. 英語全クラス共通の出席規則

英語全クラスとも共通で **3 分の 1 以上または 5 回以上の理由なき欠席**で成績を不合格 (D) とします。さらに細かな出席規則については各クラス担当の先生が定める方針に従ってください。ただし、JABEE などの外部基準が導入されている学科では、これより厳しい規則が適用される場合がありますので、それぞれの学科の規則に従ってください。

残念ながら、週 2 回の英語の授業だけでは十分とは言えません。英語学習を組織的に組み立てるために、自立的な学習法を紹介する小冊子『English Learning Strategies — 英語上達への道』をぜひ一読し、授業の補完としてください。

■選択外国語（英語以外の外国語）のプログラム

本学部では、幅広い教養を身につけ、自立した技術者や研究者の育成を目指しています。そのために、外国語の授業は、母語以外の言語で自己表現する力を養い、各言語圏の歴史や社会、文化についての認識を深める場として、重要な役割を担っています。

ところで、みなさんの母語は何語でしょう。日本語、中国語、朝鮮語などでしょうか。また、中等教育で古語日本語や漢文を学んだり、英語以外に第二・第三の言語を勉強した人もあるかと思います。そして、ほとんどの人が、数年の英語学習歴を持ち、大学で新たに別な言語を学ぶことにも関心があると思います。そこで、以下では大学で外国語を学ぶことの意義について考えてみましょう。

1. 外国語の学習意義

(1)第3の柱としての外国語

本学部では、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語の教育が行われています。新しく言語を学ぶことは、母語と英語につづく第三の極をみなさんの言語能力のフィールドに導き入れることです。そのことによって、複数の言語を比較し、それぞれの言語構造を対象化し、ひいては言語一般の仕組みについて考える複合的な視点への足がかりが得られるでしょう。

(2)言語のしくみを学ぶ最後の場？

本学部では、「基礎**語Ⅰ」、「基礎**語Ⅱ」で、言語の構造、いわゆる文法の基礎を学びます。文法をしっかりと学べるのは、市中の会話学校ではありません。実はそれは、この大学という場において他にはないのです。このチャンスを存分に活かして欲しいと思います。

(3)英語学習との相乗効果

知らない言葉を勉強してみたいけれど、英語学習と両方できるかと不安な人もいるでしょう。けれども、新しく言語を学ぶと言っても、それは英語学習の経験の上に立ってのことです。これまで英語を学んできたことが、新しい言語を学ぶ上に大きな力になります。他方、新しい言葉を学ぶという経験が、ひるがえって英語の理解を深めていくことも実感してもらえらると思います。

(4)n 個の言語へ

大学時代に新しい言葉を学んで、語学を自学自習する自分なりのスタイルを追求しておきましょう。そうすれば、将来仕事や趣味でどんな言語を学ぶ必要が生じたとしても、臆せずチャレンジしていくことができるでしょう。語学の授業を、n 個の言語を学ぶ体制を整える場にしてほしいと思います。

(5)言語と文化圏

言語を学ぶことは、その言語圏の歴史や文化、社会に触れ、世界の多様性を学ぶことでもあります。言葉を覚え、発音することで、その言語圏が一举に近づいてくる感覚は不思議なものです。そして、みなさんの心理的な世界地図がどんどん塗り替えられることになるでしょう。

(6)旅行や留学

本学部では、「**語表現」の科目で、その言語圏で生活するために必要なコミュニケーションの基本を学びます。将来、実際にその言語圏に留学したり、旅したりして、学んだ表現が通じることを確かめてみましょう。法政大学は諸外国の大学と提携をしていて、留学生を派遣する制度がありますので、留学もぜひ目標に掲げてください。

(7)語学検定資格

本学部では、「**語中級」で、全国共通語学検定資格取得をめざす授業を行います。全国共通の語学検定試験としては以下のものがあります。

ドイツ語技能検定試験

実用フランス語技能検定試験

スペイン語技能検定試験

中国語検定試験

ハングル能力検定試験

それぞれの語学検定試験には、みなさんの学習達成度を測るにふさわしい級が設けられています。検定試験を受けて学習の成果を図り、資格をとって将来に役立てましょう。

(8)就職の機会

大学で新しく言語を学べば、外資系の会社等への就職機会も増えます。また、たとえ短い期間であっても、大学で言語を学んだという経験は、特定の国や地域への親和性や理解力を培いますから、社会に出てからその言語圏に関わる仕事をしたり、彼地で働いたりする際に大いに役立つことでしょう。

(9)いくつでも、いつからでも

本学部の英語以外の外国語科目は、すべて半期で完結する選択科目です。ですから、自分の関心や学習歴に応じて、科目も時期も自由に選択することが出来ます。最高5カ国語を、いつからでも、自由に学ぶことができます。

(10)生活のリズム

新たに言語を学ぶことには、こつこつと根気よく積み上げてゆく楽しさがあります。語学の授業を上手に大学生活に組み入れることによって、規則正しい生活のリズムを刻んでいってください。

2. 選択外国語の学習内容

(1) 外国語の種類と科目

ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語について、それぞれ以下の科目があり、いずれも選択科目です。複数の種類の外国語を学習することも可能です。なお、「上級**語」科目については2019年度以降入学者のみ単位取得が可能です。

科目名	期間	単位数	週時限数
基礎**語Ⅰ	春学期	1	1
基礎**語Ⅱ	秋学期	1	1
**語表現	春学期	1	1
**語中級	秋学期	1	1
上級**語	春学期	1	1

(2) 開講曜日・時限・授業内容

曜日や時限の指定はありません。可能な曜日と時限に自由に受講してください。

- ・「基礎**語Ⅰ」: 言語の文法の基礎を、現在形を中心として学びます。
- ・「基礎**語Ⅱ」: 「基礎**語Ⅰ」程度の文法知識の上に立って、未来や過去時制を含めた文法の基本を学びます。
- ・「**語表現」: 基本的な日常会話の表現を学びます。
- ・「**語中級」: 全国共通の語学検定取得をめざし、学習達成度を測ることを目標とします。
- ・「上級**語」: 留学なども視野に入れ、上級語学検定取得を目指します。

① 初学者には:

英語以外の外国語を初めて学ぶ場合は、十分な学習効果を得るために、春学期は「基礎**語Ⅰ」および「**語表現」、秋学期は「基礎**語Ⅱ」及び「**語中級(検定)」をあわせて学習することをおすすめします。

② 既習者には:

既に英語以外の外国語を中学高校時代から学んでいて、続けて勉強したいという人もあるかと思えます。その場合は、本学習案内や科目内容を読んで、自由に選択し挑戦してみてください。

(3) 相談受付

選択に際して疑問や質問がある場合は、遠慮なく以下に相談してください。

呉 研究室 西館6階 W6018

元木 研究室 西館1階 W1003

<ドイツ語>

ドイツ語を学ぶ

ドイツ語は、主としてドイツとオーストリアの人たちが使う言語です。ドイツは日本と同じくらいの面積ですが、ドイツの首都ベルリンはドイツ北部にあり、北は海に面している一方で、ドイツの南はスイスと接し、アルプス山脈の高い山々がそびえていて、北から南、変化に富んだ風景に恵まれています。日本と共通するのは、このように美しい風土を誇ることに、強い経済力です。西側に隣り合わせるフランスと共に、EUの統合を強力に推し進めています。EUが東ヨーロッパに拡大したこともあって、EUとドイツの経済の先行きについては厳しさが増えています。そのような政治と経済の動向についてもドイツ語で知ることができたら、役に立つことが多そうです。ドイツ南部の東側に伸びるオーストリアは、アルプス山脈の山々が連なる山岳風景とドナウ川の美しさで有名です。首都ウィーンはもちろん音楽の都であり、上演されるオペラをドイツ語歌詞まで味わえたら最高です。ウィーンは、また、ニューヨークに次ぐ国連機関の所在地で、ハプスブルクの時代からの伝統を受け継いで様々な情報のクロスする所であり、外交の舞台ともなります。ドイツ語は他にはスイスの一部などでも使われています。

ドイツ語は、ヨーロッパの言語としてゲルマン系の言語グループに属しています。同じグループに属するのは北欧の言語とそして英語です。英語とは発音、文法、語彙のどの点でも共通する要素がたくさんありますから、英語の語学力を基礎にしていけば、上達は早いはずですし、英語の特徴をもう一度見直す比較も面白いでしょう。さらに、明治時代からの日本が近代国家として発展する上で、法律、経済、文化などの多方面で参考にし、お手本にしてきたということも、自分で今ドイツ語を学ぶことで再確認できますし、ドイツ語が実際に役立つ場面もたくさん用意されていることに気付くことは確かです。

<フランス語>

フランス語とはどんな言葉？

フランス語は、スペイン語やイタリア語の仲間、昔イタリア地域で使われていたラテン語を祖先に持つラテン系言語です。

一方、英語とフランス語は、英仏の長い歴史の中で互いに影響を及ぼしあってきました。現在の英語の語彙の6割がフランス語に起源を持つと言われています。ですから、英語とフランス語では、つづりが同じで読み方が異なるものも多くあります。とりわけ、法律、料理、服飾の分野で多くのフランス語が英語に入っています。逆に、コンピュータ関係では、英語の用語がフランス語に流れ込んでいます。英語と比較しながらフランス語を学ぶことで、これまで学んだ英語の知識も深めることができるでしょう。

ちなみに、フランス語は英語と較べると、つづりと発音の関係がより規則的なので、読み方の規則を覚えてしまうと、ほぼ完全に、書かれたものを正しく読み、発音することができます。

フランス語はどこで、どれくらいの人が使っているか

フランスの人口は大体 6000 万ですが、フランス語を話す人の数は2億2千万人とされています。つまり、フランス本国以外の地域の方が、フランス語話者が多いのです。

フランス本国以外でフランス語が公用語や通用語となっている国や地域としては、ヨーロッパでは、ベルギー、リュクセンブルク、スイス、モナコ、アンドラ、アフリカでは、アルジェリア、モロッコ、チュニジア、リビア、エジプト、モーリタニア、セネガル、ギニア、ブルキナファソ、マリ、ニジェール、チャド、中央アフリカ、コンゴ、コートジボワール、トーゴ、ベニン、カメルーン、ガボン、ルワンダ、ブルンジ、ジブチ、マダガスカル、東南アジアでは、ベトナム、ラオス、カンボジア、カリブ海ではマルチニック、グアドループ、南太平洋ではタヒチ、ニューカレドニア、北米ではカナダ、南米ではギアナなどがあります。このように、

フランス語は世界の多くの地域で用いられている国際語で、国連やユネスコ、ヨーロッパ連合など国際機関の公用語ともなっています。将来、みなさんが仕事や旅行で世界を飛び回るとき、フランス語を習ったことがきっと役に立つはずですよ。

フランス語を学ぶと開ける世界

フランスは世界で最も生活水準の高い国とされていますが、なぜそんな評価がもたらされたのでしょうか。フランス語を学ぶことで、フランスが、ファッション、美食、美術の国として、また、農業大国、先端技術の国、文学や哲学の国として、あるいは、革命の伝統の下で、グローバル化や移民の問題解決を模索する政治の国として、具体的で身近な存在になるでしょう。また、世界に広がるフランス語公用語圏の多様性を知ることで、心理的な世界地図が塗りかえられていくことでしょう。

<スペイン語>

スペイン語を学ぶ

スペイン語は、スペインをはじめラテンアメリカを含めると20以上の国々で話されている言語です。近年は米国のヒスパニック人口の増加も著しいものがあります。国連の公用語でもあるスペイン語は、話者人口の多さや話されている地域の広さを考慮すれば、まさに「21世紀の国際語」といっても過言ではありません。最近では、サッカーやスペイン料理、マヤやアステカ、インカをはじめとする中南米の古代文明、サルサ、メレンゲなどのラテンアメリカの音楽やダンスなど、スペイン語圏の文化に対する興味や関心が日本でも徐々に高まりつつあります。

スペイン語は、ローマ時代の公用語であるラテン語に由来する言語です。ほかにポルトガル語、フランス語、イタリア語、ルーマニア語が同じくラテン語から派生してできた言語です。これらはいわば姉妹言語の関係にあります。

スペイン語の特徴は、まず第一に発音が容易なこと。名詞を例にとると、限りなくローマ字読みに近い単語が数多く存在します。日本語と同じく、「開音節」(母音または二重母音で終わる音節)から成り立つ単語が多いため、日本人にとっては非常に発音しやすい言語だといえます。いくつかの規則さえしっかり押さえておけば、意味はわからなくてもとにかく簡単に発音することができるのです。スペイン語を勉強するときも、とにかく声に出して発音することが大切です。それを何度も繰り返すことによって、明快かつ歯切れの良いスペイン語の発音を自然にマスターすることができます。

もちろん簡単なことばかりではありません。とくに動詞の活用は、英語にはない複雑な規則がたくさんあります。多くの人が最初に直面する関門といえますが、とにかく辞書をまめに引いて慣れるしかありません。“量は必ず質に転化する”。これを頭に入れて、繰り返し練習することが肝要です。それから、自分なりの興味や関心を見つけて、目的意識をもって学習に取り組んでください。関心のあるテーマが一つでも見つければ、魅力的なスペイン語の世界が一気に広がるはずです。

<中国語>

中国語への招待

中国語の使用人口は中国、香港、台湾、シンガポール、さらに世界各国に居住している華人を加えると約14億、つまり世界総人口の約5分の1に達します。日本と中国は「一衣帯水」の隣国、長い文化交流の歴史を持っています。今、日中両国間の貿易、人の往来は、年々、質量ともに増大しています。だれにでも、いつか中国語を使うチャンスが訪れる——いまはそのような時代です。多くの人が使用する中国語が、日本人にとっては実に親しみやすい。文字はおなじみの漢字、文法もけっして難しくありません。

発音の基本さえマスターすれば、だれでも入門できます。

中国語の特徴と学習ポイント

本学部では中国語を、基礎会話、読み書き、読解力など総合的なコミュニケーション能力の養成に重点をおいて学びます。発音、挨拶言葉、基礎単語、基本表現と句型、平易な中国語を聞くこと、話すこと、訳すことなど学習範囲を無理なく、少しずつ拡大していけるように組み立ててあります。

学び方は次の4点に要約できます。

- (1)教員の発音指導に学習者は積極的に参加し、ビデオやCDの視聴などに自主的に取り組み、ピンインの読み方と綴り方を習得する。
- (2)ひとつの単語、ひとつの表現を「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」という五つの面から多角的に学ぶ。
- (3)衣食住、姓名、家族関係、天候、学習、一日の行動など身近な内容の読み書きと会話練習をしながら、中国語の基本がわかりやすく理解できるよう、文法や表現のポイントをひとつひとつ系統的に積み上げていく。
- (4)中国語の基礎的事項をマスターして、中国語の短文の読解とやや難しい複文を読解できるよう、レベルアップしていく。

中国語学習の鍵となる発音とピンインを習得し、会話や短文の読解練習を通じて単語と表現を応用できるようになったら、会話教室などで習得できない総合的なコミュニケーション能力がきつと養成されることでしょう。

<朝鮮語(韓国語)>

朝鮮語(韓国語)は、韓国と北朝鮮で共通に使われている言語です。朝鮮語(韓国語)の使用人口は、8千万くらいです。日本では朝鮮語を学術用語として使っていることもあり、本学でも「朝鮮語」という名称を採用していますが、実際、授業では「韓国語」の語学教育を行っています。

朝鮮語(韓国語)の特徴

朝鮮語(韓国語)は、文法面、語彙面、表現に至るところまで、日本語との類似点が極めて多い言語です。例えば、「私／は／学校／へ／行きます」という文も、それぞれ日本語に該当する韓国語の単語を、1つずつ同じ順序に置き換えるだけで、同じ意味の朝鮮語(韓国語)の文になります。

また、語彙面においても、日本語と同様中国から漢字語の音を借りてきているため、単語の中に音読みが同じ単語が7割以上有り、日本人学習者にとってとても覚えやすいことばです。

朝鮮語(韓国語)を学ぶにあたって

朝鮮語(韓国語)は日本語といろいろな面で類似していて、覚えやすいが、外国語であるため、日本語の五十音図のような、子音、母音を最初の段階で覚える必要があります。その文字を繰り返し見ていけば、楽しく覚え、簡単に慣れると思われれます。

日本人の韓国語学習者の中には、地下鉄や電車の駅構内に書いてある朝鮮語(韓国語)の文字(以下、ハングルと言う)すなわち、まる、四角のような、記号のような形に興味を持ち、朝鮮語(韓国語)を学び始めた人も大勢いるくらいです。ハングルに慣れさえすれば、そのあとは語順も日本語と同じなので、授業の1回目から自分の手で自分の名前が書け、半年もすれば、文字もすらすら書け、簡単な会話も楽しくできるようになります。

言葉と文化は密接な関係にあります。ことばを通して、韓国の面白い異文化、社会も体験できるでしょう。

3. 諸外国語の能力検定試験と自己学習

ドイツ語

ドイツ語技能検定試験

5級:初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文が運用できる。

ドイツ語授業を約30時間以上受講している人。

筆記40分、聞き取り(約20分、一部書き取りを含む)。

4級:基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法規則を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる。

ドイツ語授業を約60時間以上受講している人。

筆記60分、聞き取り(約25分、一部書き取りを含む)。

3級:ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を前提に、簡単な会話や文章が理解できる。

ドイツ語授業を約120時間以上受講している人。

筆記60分、聞き取り(約30分、一部書き取りを含む)。

2級:ドイツ語の文法や語彙についての十分な知識を前提に、日常生活に必要な会話や社会生活で出会う文章が理解できる。

ドイツ語授業を約180時間以上受講し、各自の活動領域においてドイツ語に習熟している人。

筆記80分、聞き取り約30分。

独検ホームページ:<http://www.dokken.or.jp/>

ドイツ語学習のために

以下のような、ラジオやテレビの語学番組も活用しましょう。

NHKラジオ ドイツ語講座:ラジオ第2放送

「まいにちドイツ語」

<https://cgi2.nhk.or.jp/gogaku/german/kouza/>

NHK テレビ ドイツ語番組:Eテレ

「旅するドイツ語」

<https://cgi2.nhk.or.jp/gogaku/german/tv/>

フランス語

実用フランス語技能検定試験

5級:初歩的なフランス語を理解し、聞き、話すことができる。

学習50時間以上。

4級:基礎的なフランス語を理解し、平易なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる。

学習時間100時間以上。

3級:基本的なフランス語を理解し、簡単なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる。

学習時間200時間以上。

2級:日常生活や普通の職場に必要なフランス語を理解し、特に口頭で表現できる。

学習時間400時間以上

仏検ホームページ:<http://apefdapf.org/>

フランス語学習のために

以下のような、ラジオやテレビの語学番組も活用しましょう。

NHK ラジオ フランス語講座:ラジオ第2放送

「まいにちフランス語」

<https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/kouza/>

NHK テレビ フランス語番組:Eテレ

「旅するフランス語」

<https://cgi2.nhk.or.jp/gogaku/french/tv/>

スペイン語

スペイン語技能検定試験

6級:基礎的な短い文章の読み書きができ、直説法現在終了。

筆記試験 60分。

5級:平易な文章の読み書きができ初級文法(直説法)終了。

筆記試験と聞き取り試験 5分程度。合わせて60分。

4級:簡単な日常会話ができ、文法を一通り終了。

筆記試験と聞き取り試験 5分程度。合わせて60分。

3級:新聞などが理解でき、一般ガイドに不自由しない。

筆記のみ90分。

西検ホームページ:<http://www.casa-esp.com/link-examen.html>

スペイン語学習のために

以下のような、ラジオやテレビの語学番組も活用しましょう。

NHKラジオ スペイン語講座:ラジオ第2放送

「まいにちスペイン語」

<https://cgi2.nhk.or.jp/gogaku/spanish/kouza/>

NHK テレビ スペイン語番組:Eテレ

「旅するスペイン語」

<https://cgi2.nhk.or.jp/gogaku/spanish/tv/>

中国語

中国語検定試験

日本中国語検定協会(電話03-5211-5881、<http://www.chuken.gr.jp/>)主催の中国語検定試験。1981年から開始、2017年末現在すでに90回実施されてきました。通常、年に3回、6月、11月、3月の第4日曜日に行われます。それに関連する過去問題など問題解説集・学習教育指導書が多数刊行され、簡単に入手できます。日本で最も歴史が長く、参加者の多い中国語検定試験として定評があります。

準4級: 学習を進めていく上での基礎的知識を身につけている。学習時間60~120時間。
試験解答時間60分(リスニング・筆記)

4級: 平易な中国語を聞き、話すことができる。学習時間120~200時間。

試験解答時間100分(リスニング・筆記)

3級: 基本的な文章を読み、書くことができること。簡単な日常会話ができること。

学習時間200~300時間。

試験解答時間100分(リスニング・筆記)

詳しくは上記のホームページを参照してください。

中国語検定試験の申し込みは、郵送申し込みとインターネット申し込みのどちらでもできます。

法政大学の海外協定校(北京2校、上海1校、山東省済南市1校、台湾3校)に留学を希望する人は3級合格を目指しましょう。

中国語学習のために

以下のような、テレビやラジオの語学番組も活用しましょう。

NHKラジオ・まいにち中国語:ラジオ第2放送

「まいにち中国語」

<https://cgi2.nhk.or.jp/gogaku/chinese/kouza/>

NHK Eテレ・テレビで中国語 教育テレビ

「テレビで中国語」

<https://cgi2.nhk.or.jp/gogaku/chinese/tv/>

朝鮮語

ハングル能力検定試験

5級: 韓国・朝鮮語を習い始めた初歩の段階で、基礎的な韓国・朝鮮語をある程度理解し、それらを用いて表現できる。

60分授業を40回受講した程度。

リスニング・筆記問題あわせて90分

4級: 基礎的な韓国・朝鮮語を理解し、それらを用いて表現できる。

60分授業を80回受講した程度。

リスニング・筆記問題あわせて90分。

3級: 日常的な場面で使われる基本的な韓国・朝鮮語を理解し、それらを用いて表現できる。

60分授業を160回受講した程度。

試験はリスニング・筆記問題(記述問題を含む)あわせて90分。

ハンゲル能力検定ホームページ:<http://www.hangul.or.jp/>

ハンゲル学習のために

以下のような、ラジオやテレビの語学番組も活用しましょう。

NHKラジオ・ハンゲル講座:ラジオ第2放送

「まいにちハンゲル講座」

<https://www2.nhk.or.jp/gogaku/hangeul/kouza/>

NHK E テレ

「テレビでハンゲル講座」

<https://www2.nhk.or.jp/gogaku/hangeul/tv/>